

くびらくも



表現する力

11月12日(土)は、学習発表会でした。それぞれの学年の子どもたちが、心を込めて演技をしてくれました。楽しい踊りあり、上手な歌あり、英語劇あり、見ていても楽しい学習発表会でした。学級の子ども一人ひとりが心を一つにして、劇を作り上げていく過程で、子どもたち一人ひとりの表現力を育てていくことをねらいとしてきました。見ていて、その手応えを感じました。

日頃は、あまり人前で大きな声を出さないおとなしい子が、舞台上でライトを浴びて、大きな声で、演技しているのを見て、嬉しく思いました。

私の経験からも、学習発表会は、子どもの眠れる表現力を目覚めさせてくれる機会になると思っています。

私は、小学校の5年生のときに、「雨つぶたち」という劇に出ました。私は「雨つぶ5」の役でした。その劇の配役で、一番セリフの多い役でした。生まれて初めてもらった大役でした。得意になって演じました。今から思えば、人前で自分を表現できるようになったのは、これがきっかけなのではないかと思うのです。他の人から見れば、そんな私の変化など気にもならないことかも知れませんが、私にとっては大きな出来事でした。

これからも小学校生活において、子どもたちの表現力を育てる機会を大切にしていきたいと思っています。

学習発表会、歌や踊りや笑いあり!

児童会長あいさつ



金管部の発表



1年「ひろった ビスケット」



3年「どろぼう学校」





5年「鬼ヶ島へ レッツ ゴー」



4年「まぬけな山賊たち」



2年「キッチンパニック」



6年「タピオカ ツンドラ」



11/7朝会講話より

まどさんの好きな草

皆さんは、まどみちおさんという人をご存じですか。平成26年に104歳でお亡くなりになった有名な詩人です。名前は知らなくても、「ぞうさん」の歌や「一年生になったら」の歌はご存じでしょう。

先日、まどさんのことが、新聞のコラムに載っていたので、紹介します。

まどさんは、「イネ科の穂のあるような草」草むしりで真っ先に抜かれるような草が好きだったそうです。「その草を見ていると飽きないんです」と言いました。その理由をまどさんは、「どこにでも見られる、葉っぱのところがったイネ科の草は、人にこびるところが全然なくて、自分勝手に生きているでしょ。飾りみたいな、きれいに見えるものは何もないんです」だから、好きだと言ったのです。

実は、この話は、小笠原諸島の西之島に続きます。3年前の海底火山の噴火で、面積が12倍ほどにもなったあの島のことで

す。研究者が先日上陸したところ、溶岩だけの過酷な環境にもかかわらず、イネ科の草、オヒシバが生き残っていたというのです。魚を食べるカツオドリや草の種子を食べるアトリ（胸がオレンジ色の雀のような鳥のこと）も見つかったと言います。

溶岩だけで土のない所にも鳥が巣を営みフンをすることで、植物に必要な栄養がもたらされる。人の手が入らない島でどんな新たな生物が栄える世界ができるか、まどさんは、空の上から、飽きることなく見つめているかも知れません。

私も、目立たなくてもたくましく生き抜く、人のそんな生き方は、大切だと思います。